

# 令和5年度 地域活性化活動助成事業報告書

令和6年1月20日

|                             |  |               |         |
|-----------------------------|--|---------------|---------|
| 活動名                         | 学校花いっぱい推進支援事業  |               |         |
| 活動概要<br><br>成果<br><br>今後の課題 | <p>この事業は10年前から取り組んでおり、県本部より助成を受けてから9年目となる。それ以来春秋全シーズンを通して学校・園の花いっぱい活動に貢献して来ている</p> <p>年2回春と夏に会員の畑を借用し、協力して花壇や鉢栽培用の花の種を蒔き、苗を栽培して配布することにより、各施設の花壇に植えてもらって、花いっぱい活動の支援をしている。</p> <p><b>【夏の花苗栽培】 4月～6月</b><br/>サルビア、マリーゴールド、ポチュラカ、メランポジウム、千日紅など</p> <p><b>【ビオラ苗栽培】 8月～11月</b><br/>ビオラ、ノースポール、キンセンカなど</p> <p>① 成果として<br/>各校に花の苗という目に見える具体的支援を継続的に行うことにより、教育会への理解も深められ、花いっぱい活動への貢献は会員の加入者増にもつなげることができたと思われる。</p> <p>② 課題として<br/>各校の栽培の様子や管理方法、要望等にも耳を傾けながらさらに栽培しやすく、見栄えがよく、暑さに強く、花期が長く、花つきのよい種類や彩りのよい花をその年の気候に合わせて栽培し、配布していきたい。</p> |               |         |
| 助成金の使途                      | 助成金額   |               | 30,000円 |
|                             | 使 途  | 培養土、種、肥料等（別紙） | 36,217円 |
| 報 告 者                       | <p>上記のとおり、地域活性化活動助成事業に係る活動報告書を提出します。</p> <p>団 体 名            山口県教育会周南熊毛支部</p> <p>代 表 者            吉 松 俊 久    (印)</p>   |               |         |
| 支部長の確認                      | <p>周南熊毛支部</p> <p>支 部 長            山 村            進    (印)</p>  |               |         |

**花いっぱい推進支援事業**

本年度も新型コロナウイルスの感染拡大が続いたが、花作りは戸外の活動であり、互いに密を避け感染予防に努めながら例年通り苗作りを行うことができた。

この事業は各学校へ還元できる活動として10年来取り組んでおり春秋全シーズンを通して学校・園の花いっぱい活動に貢献して来ている

熊毛地区内には幼稚園・保育園7園(休園1)、小学校5校、中学校1校、高校1校がある。いずれの施設も花いっぱいの環境づくりには力を入れている。各施設で苗を育てるにしても育苗方法や管理等、先生方や職員の過重な負担と時間がかかる上、かなりの経費がかかり、なかなかそこまでは手が回らない。そこで、年2回春と夏に会員の畑を借用し、協力して花壇や一鉢栽培用の花の種を蒔き、苗を栽培して配布することにより、各施設の花壇に植えてもらって、花いっぱい活動の支援をしている。

……▶ 種まき → 育苗 → (ポットへ移植) → 苗の配布 → 各校・園で栽培 → 種取り ……▶

また、春にはビオラの鉢植えをいくつかの園・小中学校の卒業式や入学式に貸し出して、式場に彩りを添えて喜ばれている。

市は本年度から、当事者の高齢化を理由に「花壇コンクール」を中止し、苗の提供も取りやめたので、支部での花いっぱい活動はより重要性を増してきた。コンクールが無くても各学校では花のある環境づくりに努めている。花いっぱい活動は、心豊かな子供達を育てる気運や園・学校・地域の美しい環境を醸成することができ、各地で好評を得ている。苗作りは毎年の気象条件に左右されることから神経を遣うが、毎年喜んでもらえており、さらに、花の種類や数、苗の定植の時期、花の管理の仕方など現場の声を聞き、質の良い苗を安定的に供給できるよう努めたい。

**【夏の花栽培の概要】**

- ・花の種類 サルビア、マリーゴールド、ポーチュラカ (各約1000本)  
メランポジウム、千日紅(各約400本)
- ・4月 畑づくり、種まき
- ・5月 育苗、灌水、草取り、間引き
- ・6月 苗の配布
- ・11月～ 種取り

**【ビオラ栽培の概要】**

- ・8月下旬 種まき
- ・9月上旬 ポットへの移植、灌水、育苗
- ・10月下旬～11月上旬 苗の配布 (約600本)
- ・翌年5月 種取り

**(1) 成果と今後の課題**

- ① 各校や園等に苗を継続的に配布しているので、毎年当てにして待っておられる。先生方の管理の技術も上達しており、市の花壇コンクールは中止となったが、これまで通り各学校で花いっぱいへの活動は意欲的である。
- ② 各校に花の苗という目に見える具体的支援を継続的に行うことにより、教育会への理解も深められ、花いっぱい活動への貢献は会員の加入者増にもつなげることができたと思われる。

- ③ 助成金を有効に活用することにより各学校だけでなく、幼・保育園、一部の自治会などに苗を広範囲に配布できた。また、花作りには土作りが大切であることから培養土を配布したところ、とても喜んで頂けこれまで以上に花いっぱい活動の支援をすることができた。

これからの課題として次のようなことが考えられる。

- ① 夏の花について、各校の栽培の様子や管理方法、要望等にも耳を傾けながらさらに栽培しやすく、見栄えがよく、暑さに強く、花期が長く、花つきのよい種類や彩りのよい花を栽培して配布していきたい。(例) メランポジウム、千日紅、ノゲイトウ
- ② 本年度は9月～10月上旬にかけて高温が続き、ビオラの苗が半分余り立ち枯れてしまった。  
年々気温が高くなっているので種を蒔く時期を遅らせたり、暑さに強い花に変えたりして工夫していく必要がある。
- ③ 苗の栽培は土質や種、天候や管理の仕方などに左右される。また、毎年続けて種を取っていくと花が劣化していくものがあり店頭に見られるようなそろった上質の苗を作るのはなかなか難しい。今後も工夫していく必要がある。
- ④ 学校により栽培活動の様子が異なるので、苗の出来る時期と各学校の花壇の植え替えの時期が合うようによく要望を聞きながら配布する必要がある。
- ⑤ 現在は主に小・中・高等学校に配布し、わずかながら幼・保育園、自治会にも配布している。今後さらに地域の花いっぱい活動の推進へと広げていきたい。

(2) 活動の様子

【夏の花栽培】



4月13日 種まき



5月20日 暑い中大変な草引き、間引き、お疲れさん



6月7日 約2カ月で生長 苗の配布作業



6月5日 セルケースでさし木したポーチュラカを一鉢へ移植作業 (勝間小)



8月22日 赤色の鮮やかなサルビア (三丘小)



8月22日 ポーチュラカと千日紅の彩りのよい花壇 (三丘小)



8月22日 一鉢栽培できれいに咲いたポーチュ  
ラカ（高水小）



8月26日 種まき



8月30日 発芽する

8月22日 ボリュームのあるメランポジウムの  
花壇（熊毛中）



9月9日 セルケースへ移植作業



9月10日 元気に成長した苗



9月24日 みんなでポットへ移植作業



11月3日 枯れた苗



11月3日 元気に育った苗



11月3日 例年の半数の生育



4月10日 入学式のステージを飾るビオラ  
（高水小）



4月11日 キンセンカとビオラのきれいな  
花壇（三丘小）